

サブサハラアフリカ諸国における 初等教育男女格差が所得水準に与える影響

東京外国語大学 外国語学部 ドイツ語専攻4年
宇野ゼミ 三谷育子

Introduction 1: 研究背景

- 2015年: ミレニアム開発目標(MDGs), ダカールEFA(Education For All)行動枠組みの目標達成における区切りの年であり、「男女格差の是正」はその両方に組み込まれている
- マララ・ユスフザイさんのノーベル平和賞受賞
⇒ 国際的にも注目、重要視されている
- 特にサブサハラアフリカにおいて、教育における男女格差が依然大きく、目標達成にも遠い

Introduction2: 女子教育の阻害要因

■ 教育環境に関する要因

学校外: 通学の困難さ(遠距離通学、通学路の未整備)

学校内: 基本的学習設備、女子トイレ、女性教員の不足

■ 家庭に関する要因

経済的負担(制服代、教科書代、文房具代etc...)/親の教育観/家事負担(就学による機会費用が男子よりも高い)

■ 文化・社会的要因

早期結婚/早期妊娠/教育は結婚の障害になるという考え方

Introduction3: 女子教育はどのように経済発展に貢献できるのか

- **直接的影響: 経済活動への参加**
 - フォーマルセクターにおける経済活動への参加が促進
 - 1年間の学校教育を受けると収入が平均で10%増加
- **間接的影響: 人口増加抑制、保健衛生分野の質向上**
 - 栄養・病気についての知識を得る→子どもの栄養失調率・死亡率が下がる→多くの子どもを持つ意味がなくなる
 - 婚期を遅らせ、多産の弊害と少産の利益、家族計画の重要性及び妊娠の制御法を理解する

Introduction4: SSA諸国の現状

- EFA及びMDGsの達成から最も遠い地域である

①世界最多の不就学者数

②高いドロップアウト率

③大きな男女格差

④低い識字率

⑤多額の国際援助への依存

+ 貧困・紛争

- 多方面で絡み合うことで問題が複雑化

Introduction5: 研究の目的

- 「教育における男女格差を是正し、女子の教育を行うことは所得水準にプラスの影響を与える」という仮定の検証
- 教育における男女格差とひとり当たりGDPの相関関係を明らかにする
- その結果をもとに、女子教育がどの程度経済レベルの向上に影響を与えるか、また他の要素は何か分析する
- 今後のサブサハラアフリカにおける男女格差是正の重要性を述べる

- $GDP\ per\ capita_{it}$
$$= \beta_0 + \beta_1 ENGAP_{i(t-x)} + \beta_2 COMGAP_{i(t-x)} + \beta_3 ENTOT_{i(t-x)} + \beta_4 COMTOT_{i(t-x)} + \beta_5 INV_{i(t-1)} + \beta_6 OPEN_{it}$$
 - ENGAP: 初等教育純就学率における男女差(-)
 - COMGAP: 初等教育修了率における男女差(-)
 - ENTOT: 初等教育純就学率(男女平均)(+)
 - COMTOT: 初等教育修了率(男女平均)(+)
 - INV: FDI net inflows(+)
 - OPEN: GDPに占める貿易額の割合(+)
 - i: 国 t: 年次 x: 初等教育年数
- 男女差は(男子の割合)-(女子の割合)で計算
- データ: Africa Development Indicators(ADI) 2012/13 より

Method: 相関図作成

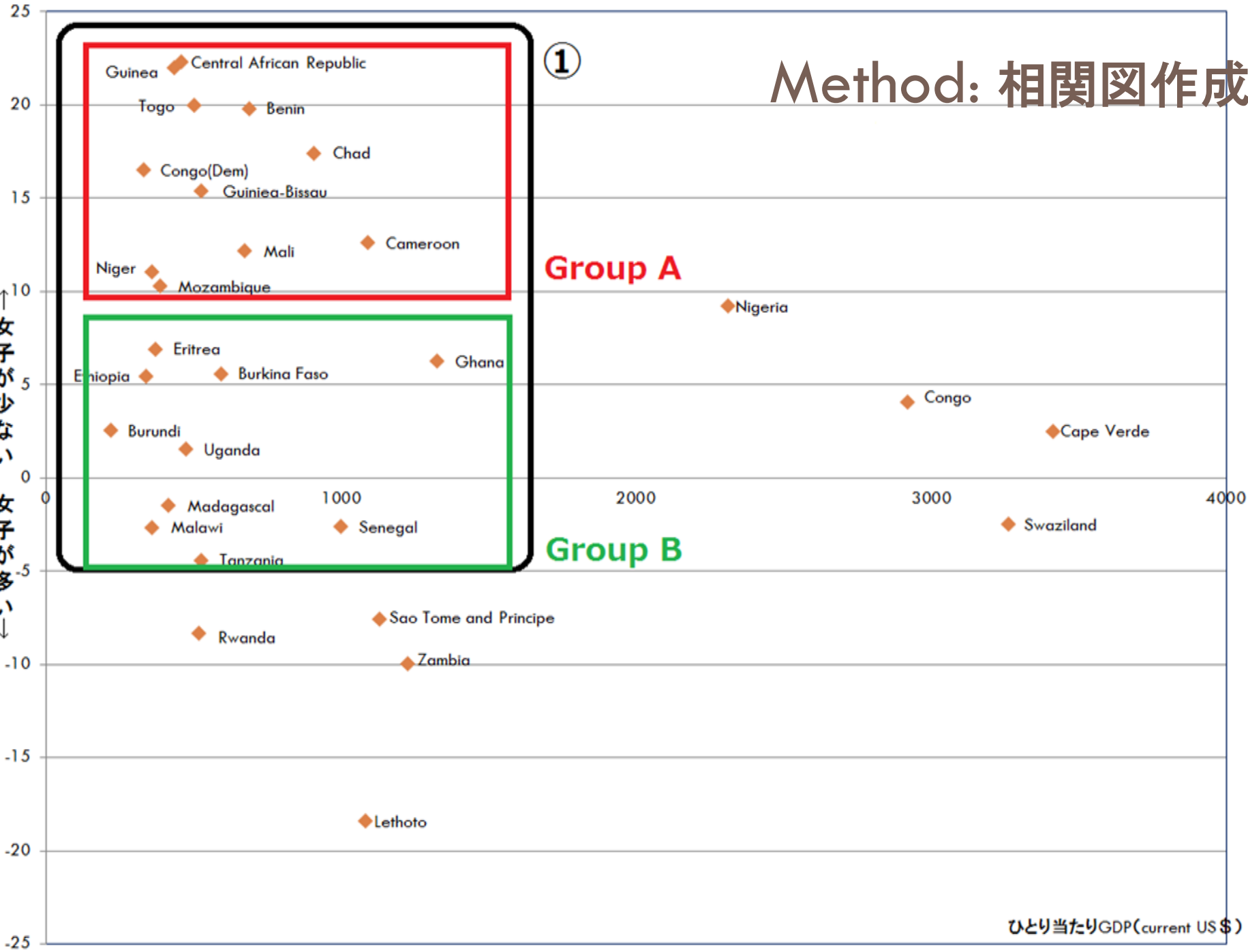
①

↑ 女子が少
初等教育修了率
女子が多い
↓ 男女差

Group A

Group B

ひとり当たりGDP(current US\$)



概要		Result1: プーリングデータ分析						
回帰統計								
重相関 R	0.702271							
重決定 R2	0.493184							
補正 R2	0.463661							
標準誤差	197.0042							
観測数	110							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F			
回帰	6	3889982	648330.4	16.70495	2.24E-13			
残差	103	3997499	38810.67					
合計	109	7887482						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-163.996	81.97158	-2.00065	0.048062	-326.568	-1.42493	-326.568	-1.42493
就学率男女差	2.216419	4.226611	0.524396	0.60113	-6.16607	10.59891	-6.16607	10.59891
修了率男女差	-8.89273	4.172811	-2.13111	0.035459	-17.1685	-0.61694	-17.1685	-0.61694
男女就学率	5.006456	2.156158	2.321934	0.022205	0.730225	9.282687	0.730225	9.282687
男女修了率	7.697658	2.208852	3.484913	0.000725	3.31692	12.0784	3.31692	12.0784
FDI	-4.97188	3.600086	-1.38104	0.170254	-12.1118	2.168042	-12.1118	2.168042
貿易	3.50095	1.197803	2.92281	0.004265	1.125391	5.876508	1.125391	5.876508

Result2: Group A分析

対象国: ギニア、トーゴ、マリ
ニジェール、モザンビーク

概要	
回帰統計	
重相関 R	0.837378
重決定 R2	0.701202
補正 R2	0.632248
標準誤差	76.87977
観測数	33

分散分析表					
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F
回帰	6	360630.1	60105.01	10.1692	8.3E-06
残差	26	153673	5910.498		
合計	32	514303			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-1.00421	84.87306	-0.01183	0.99065	-175.463	173.4549	-175.463	173.4549
就学率男女差	-10.0615	5.751171	-1.74947	0.092006	-21.8832	1.760186	-21.8832	1.760186
修了率男女差	-15.2694	5.39248	-2.83161	0.008822	-26.3538	-4.18499	-26.3538	-4.18499
男女就学率	-0.16444	1.731967	-0.09495	0.925086	-3.72455	3.395668	-3.72455	3.395668
男女修了率	13.8596	2.929559	4.730951	6.84E-05	7.837806	19.8814	7.837806	19.8814
FDI	-11.158	3.483237	-3.20333	0.003573	-18.3179	-3.99806	-18.3179	-3.99806
貿易	5.658004	1.424355	3.972327	0.000502	2.7302	8.585807	2.7302	8.585807

Result3: Group B分析

対象国: ブルンジ、ブルキナファソ
エチオピア、エリトリア、ガーナ

概要	
回帰統計	
重相関 R	0.884534
重決定 R2	0.782401
補正 R2	0.750557
標準誤差	164.2113
観測数	48

分散分析表					
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F
回帰	6	3975233	662538.9	24.57	4.01E-12
残差	41	1105580	26965.36		
合計	47	5080813			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-145.617	228.6835	-0.63676	0.527818	-607.453	316.2184	-607.453	316.2184
就学率男女差	10.06913	13.21879	0.761728	0.450582	-16.6268	36.76503	-16.6268	36.76503
修了率男女差	-24.8954	5.984534	-4.15996	0.000159	-36.9814	-12.8094	-36.9814	-12.8094
男女就学率	8.324702	2.875735	2.894808	0.006055	2.517037	14.13237	2.517037	14.13237
男女修了率	12.62586	3.409085	3.703592	0.000628	5.741075	19.51065	5.741075	19.51065
FDI	14.26457	8.784809	1.623777	0.112088	-3.47671	32.00586	-3.47671	32.00586
貿易	-1.68605	2.315093	-0.72829	0.470578	-6.36147	2.989377	-6.36147	2.989377

Result & Analysis

- ①教育における男女差は所得水準に対して負の影響
是正が必要、就学率よりも修了率のほうが顕著
- ②男女関わらず、就学でき、修了できる子どもの絶対
数を増やし、人的資本レベルの底上げ
こちらも就学率より修了率のほうが影響が大きい
→就学できてもドロップアウトすればマイナス
- ③FDIは女子が教育課程に参加するにつれて正の効
果
→女子の教育は生活水準の向上に間接的に影響を与える
- 「初等教育無償化政策」のマイナス面...？

Concluding Remarks

- **仮定は概ね立証された**
男女格差は負の影響、就学率修了率向上は正の影響を与える
- **就学した子どもたちがドロップアウトせず在学し続け修了できるよう、修了を阻む要因を解決する必要がある**
→ただ、あるひとつの問題のみを解決するのではなく、教育システム全体のバランスを見ながら政策を作ることが重要

References

- Kazuo Kuroda. (1999). The Impact of the Educational Gender Gap on Economic Development in Cross Section of Countries.
- King, E. M., & Hill, M. A. (1995). Women's Education in Developing Countries: Barriers, Benefits, and Policies. A World Bank Book. World Bank.
- Knowles, S., Lorgelly, P. K., & Owen, P. D. (2002). Are educational gender gaps a brake on economic development? Some cross-country empirical evidence. Oxford Economic Papers 54, p118-149
- Klasen, S. Low Schooling for Girls, Slower Growth for All? Cross-Country Evidence on the Effect of Gender Inequality in Education on Economic Development. The World Bank Economic Review, Vol. 16, No. 3 p345-373
- Mikiko Nishimura. (2012). Gender and Basic Education in Sub-Saharan Africa: From Gender Parity to Gender Equality
- 黒田 一雄(2000)“発展途上国における女子教育の教育経済学的考察”
- 小川啓一/西村幹子/北村友人(2008)『国際教育開発の再検討—途上国の基礎教育普及に向けて—』東信堂
- 澤村信英(2003)『アフリカの開発と教育 人間の安全保障をめざす国際教育協力』明石書店
- 菅野琴/西村幹子/長岡智寿子(2012)『ジェンダーと国際教育開発—課題と挑戦』福村出版
- 黒田一雄/横関祐見子(2005)『国際教育開発論 理論と実践』有斐閣
- 米村明夫(2003)『世界の教育開発 教育発展の社会学的研究』明石書店
- 船田クラーセンさやか編(2010)『アフリカ学入門 ポップカルチャーから政治経済まで』明石書店

References

- 世界ガールズ白書2009/2012 Plan Japan
- 世界子供白書2004 /2007 UNICEF
- Education Policy and Data Center
- EFA Global Monitoring Report 2011, 2013/14 UNESCO
- Generation 2030 Africa Division of Data, Research, and Policy UNICEF
- OECD Glossary of Statistical Terms
- UNESCO Institute for Statistics
- UNESCO Website
- UNICEF Website
- World Bank Africa Development Indicators/World Development Indicators
- 外務省HP
- 公益財団法人日本ユニセフ協会HP
- 文部科学省HP